

# 土曜 ライフ・楽しむ

## 「球春」ウキウキ オヤジの楽しみ

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



した監督でしたが、球団や周りに理解されなかったのが残念でなりません。以来長い低迷期が続いています。

「球春」——ウキウキするいい響きです。いよいよ25日、プロ野球の開幕です。

今年にはファイターズのピツグボス新庄剛志監督、ミスタードラゴンズ立浪和義監督の就任と話題満載。私はパ・リーグでは地元ファイターズを応援しますが、セ・リーグは実は長くドラゴンズファンをやっています。

昭和のよき時代、オヤジが塩豆とビール片手にテレビで野球を見るのは当たり前前の景色。子どもたちは空き地で三角ベースで遊んだものです。その後サッカー人気が台頭し、テレビゲームの流行と共に外であまり遊ばなくなり、ついに地上波のテレビからはプロ野球がほとんど消えてしまいました。

故郷の大阪では半数が阪神ファンで次が巨人。「おっ、通やな」と言われる阪急、近鉄、南海のファンが少し居て、その他がチラホラ。初めてのプロ野球をナゴヤ球場で観戦し、巨人に勝ったドラゴンズを見てはまってしまい、以来60年ほど経過しました。

なぜ好きかと尋ねられても答えられません。過去には野武士野球と呼ばれた時代もあり個性豊かな選手もいましたが、全般的には地味で、洗練とはほど遠いチームでした。

近年ではオレ流と呼ばれ、無愛想でマスコミに嫌われた

落合博満監督が好きです。就任した2004年、補強も解雇もせず、現有戦力の底上げでリーグ優勝を実現したのは痛快でした。

その後常勝監督と呼ばれましたが、11年首位スワローズを猛追して天王山を迎えたその直前、退任が発表されるとこの信じがたい事態が起こりました。球団社長が自チームの敗戦にガツポーズしたという醜い話も報道されるなど、落合憎しが表面化したのです。

投手陣を含めた守り重視の野球は、全盛期の荒木、井端を筆頭に結構しびれました。苦勞人らしく、選手を大切に

ファイターズ、ドラゴンズ共にここ数年の不振は悔しいばかりです。選手より目立つ型破りの新庄野球、奇抜さが際立ちますが、若い選手に伸び伸びとした勢いが感じられ、待望久しい立浪野球にはここ数年のぬるま湯を排した厳しさがあり、両チームに大きな期待がふくらみます。

今年も解説者の予想は下位が定位置でしょうが、なんとかして彼らの予想を覆し、日本シリーズは両チームの対戦を願ってやみません。

プロ野球好きはオッサンの証し。たかが野球されど野球、ファンに元気を届けてほしいもんです。

